

東京都立墨田特別支援学校 小学部 4 年生 博物館出前講座 実施要領

1. 受講児童 : 小学部 4 年生 18 人 (軽度障害～重度障害)
2. 実施日時 -2 時間プログラム- : 2019 年 11 月 27 日 (水曜)、13 時 30 分 ～ 14 時 15 分
12 月 18 日 (水曜)、13 時 30 分 ～ 14 時 15 分
3. 講座のテーマ : どき で ドキ・ドキ - はくぶつかんの どき を たいけん しよう -
4. 講座のねらいと展開 (「自立活動」の時間 / “なかよしタイム” に位置づけて)

【1 時間目】

(1) 講座のねらい

- a, 実物の土器 (奈良時代) をさわり、五感を使って楽しく観察することができる。
- b, 土器が展示されている博物館という存在を意識し、記憶に残すことができる。

(2) 講座の展開 (45 分)

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入① 5 分	授業の準備と始まりの挨拶 ・ 講座スタッフと挨拶する。	・ スタッフの自己紹介の後、全員で挨拶して始まりを意識させる。 * 担任が授業の開始を伝え、全員で「こんにちは」と言葉をかけあう。	・ 講座を受ける気持ちに切り替えることができる。
導入② 10 分	本時の目的と昔のイメージ ・ 学習内容を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “どき” ってなに? 3. “どき” にさわろう 4. “はくぶつかん” をおぼえよう 5. おわりの、あいさつ ・ 大昔をイメージする。	・ 講座の内容をホワイトボードに記しておき、見通しがもてるようにする。 ・ 古代人の服装のスタッフがパフォーマンスを行い、今とは異なる生活空間ということが意識できるようにする。 * “どこでもドア” で古代人 (古代着のスタッフ) の大昔へ行く。 ・ 紙芝居を使って、大昔の暮らしを意識できるようにする。 * 狩りや耕作、竪穴住居での暮らしの様子を、紙芝居で伝える。	・ 講座の目的に気付くことができる。 ・ パフォーマンスを楽しんで、反応することができる。 ・ 大昔の人たちの暮らしぶりに、関心をもつことができる。
展開① 20 分	土器の触察 ・ 古代の坏形土器を手にとってよく見て、隅々までさわって、においもかぎ、知覚で観察する。	・ 土器を壊さない扱い方をパフォーマンスで伝え、意識をもてるようにする。 * 土器を乱暴に扱う古代人に×のカードを、丁寧に扱う古代人に○のカードを、それぞれ提示する。	・ 土器をやさしく扱うことができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坏形土器が何に使われたのかを想像する。 ・ 現代のごはん茶碗を触察して、土器と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坏形土器の感触やにおいの体験から用途を考え、昔の生活が想像できるようにする。スタッフと教職員がサポートして、言葉をかけながら楽しく進める。 ・ 坏形土器が何に使われたのか、イラストカードを使ったQ&Aで、各生徒が意見を行動で示せるようにする。 *解答は、食器・太鼓・帽子の三つのイラストカードを用意し、各生徒が選択して答える。 ・ 見た目だけでなく、手触りやにおいて土器と茶碗を比較できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 触察の感想などをスタッフや教職員に伝えることができる。 ・ Q&Aで自分の意思を示すことができる。 ・ 土器と茶碗の違いに気付くことができる。
展開② 7分	<p>博物館をおぼえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の世界から現実の世界に思考を切り替える。 ・ 土器が展示されている博物館について、意識がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフが古代着を脱ぎ、話題が昔から今に変わることに気付かせる。 *現代に“どこでもドア”で戻る。 ・ 土器が博物館に展示されている様子をパワーポイントで示し、博物館の存在を意識できるとともに、名称を記憶に残せるようにする。 *講座後、家族と一緒に博物館のバーチャル体験をPCやスマホで楽しめるように、URLを記した学習の振り返りシートを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いかけに反応することができる。 ・ 実際の博物館の様子に関心をもつことができる。
まとめ 3分	<p>学習を思い出に残す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習に取り組んだしるしに、土器をデザインしたストラップを受け取る。 ・ 終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各児童にストラップを手渡して、学習が楽しい記憶として残るようにする。 ・ 全員で「ありがとうございました」と挨拶し、授業の終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感謝の気持ちを、言葉や態度で、スタッフに伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 実物教材 : 土師器坏形土器 (奈良時代)、現代の茶碗
- 機器・教具 : PC (パワポ用)、プロジェクター、古代服、紙芝居

【2時間目】

(1) 講座のねらい

- a, 縄文土器の模様を観察し、土器を参考に、貝殻や竹管で粘土に模様をつけることができる。
- b, 土器が展示されている博物館という存在を意識し、記憶に残すことができる。

(2) 講座の展開 (45分)

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入① 2分	授業の準備と始まりの挨拶 ・講座スタッフと挨拶する。	・挨拶をして始まりを意識させる。 *担任が授業の開始を伝え、全員で「こんにちは」と言葉をかけあう。	・気持ちを切り替えて講座を受けることができる。
導入② 5分	本時の目的と昔のイメージ ・前回学習した土器を思い出し、むかしをイメージする。 ・学習内容を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “どき”のもようをみて、まねをしよう 3. “はくぶつかん”をおもいだそう 4. おわりの、あいさつ	・前回の講座で触察した土器を見せ、名称と用途などを思い出すようにする。 ・講座の内容をホワイトボードに記しておき、見通しがもてるようにする。 ・“どこでもドア”で大昔へ行き、学習内容が今とは違う生活空間だと意識できるようにする。 ・紙芝居を使って、大昔の暮らしに関心がもてるようにする。	・土器の学習を思い出すことができる。 ・講座の目的に気付くことができる。 ・大昔の暮らしに反応することができる。
展開① 8分	縄文土器の模様の観察 ・縄文土器をさわって、模様を観察する。 ・縄文土器の模様の装飾方法を見る。	・土器を壊さない扱い方をパフォーマンスで伝え、意識をもてるようにする。 *土器を乱暴に扱う古代人に×のカードを、丁寧に扱う古代人に○のカードを、それぞれ提示する。 ・縄文土器に模様を描く道具や方法について、児童の想像を促すようにする。 ・多様な模様と装飾方法をパーポイントで示し、関心が深まるようにする。	・土器をやさしく扱うことができる。 ・多様な模様に気付くことができる。
展開② 20分	粘土に模様をつける ・貝殻と竹管を使い、縄文土器と同様の模様をテラコッタ粘土に付け、装飾する。 ・模様を付けた粘土板を相互に鑑賞する。	・模様付けはスタッフと教職員がサポートし、言葉をかけあって楽しく進める。 ・モノの装飾が、楽しい気持ちになることを意識できるようにする。 ・各児童の制作作品を肯定的にコメントして、成功体験となるようにする。 *教員が各作品の良い部分を一点ずつ褒め、全員が拍手で称える。	・貝殻と竹管で多様な模様が描けることに気づき、実践できる。 ・友だちの作品に関心をもつことができる。

<p>まとめ 10分</p>	<p>博物館を再認識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の世界から現実の世界に思考を切り替える。 ・昔の土器を見ることができる博物館について、再度意識がもてるようにする。 ・お礼と終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“どこでもドア”で戻り、話題が昔から今に変わることに気付かせる。 ・土器はどこで見られるか、イラストカードを使ったQ&Aで、各児童が回答を行動で示せるようにする。 ＊土器の展示施設について、「博物館」「図書館」「映画館」の3枚のイラストカードを用意し、各児童は正解のカードを選ぶ。「博物館」のカードは学習の記念・記憶物としてプレゼントする。 ・全員で「ありがとうございました」と挨拶し、授業の終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話題が変わったことに気付くことができる。 ・Q&Aで、自分の意思を行動にして示すことができる。 ・お礼を言葉や態度で伝えることができる。
--------------------	---	---	---

(3) 使用教具・機器

- 実物教材 : 縄文土器
- 機器・教具 : PC (パワポ用)、プロジェクター、古代服、テラコッタ粘土、粘土板、貝殻、竹管、Q&Aカード